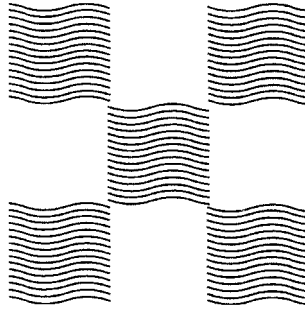


同志社社会学研究

「第12号」



2008年3月

●研究論文

社会運動理論における領域仮説の転換

鶴飼 孝造

災害からの長期的復興に関する文献的研究

黒宮亜希子

大学生男女の職業的階層志向の違いとその背後にあるもの

多喜 弘文

●セミナー

社会調査データの入力とチェックの方法

小林 久高
雨森 聡
山本 圭三

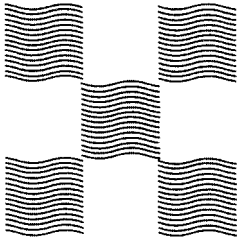
●書評

天木志保美著

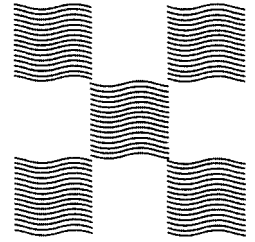
『ケアと社交—家族とジェンダーの社会学』

ハーベスト社, 2007年

片岡 佳美



ISSN 1342-9833



Doshisha Review of Sociology

No. 12 March 2008

CONTENTS

●ARTICLE

Shifting Domain Assumptions in Social Movement Theory

UKAI Kozo

Long-term Life Recovery from Disaster :
A Substantive Review

KUROMIYA Akiko

The Difference of Occupational Achievement Orientation Between
Male and Female College Students

TAKI Hirofumi

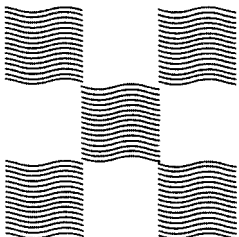
●SEMINAR

How to Make a Dataset for Quantitative Analysis
from Social Research Data

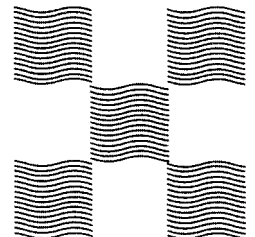
KOBAYASHI Hisataka
AMENOMORI Satoshi
YAMAMOTO Keizo

●BOOK REVIEW

KATAOKA Yoshimi



Doshisha Sociological Association



同志社社会学研究

NO. 12, 2008

<目次>

●研究論文

社会運動理論における領域仮説の転換	鶴飼 孝造	1
災害からの長期的復興に関する文献的研究	黒宮亜希子	15
大学生男女の職業的階層志向の違いとその背後にあるもの	多喜 弘文	27

●セミナー

社会調査データの入力とチェックの方法	小林 久高 雨森 聡 山本 圭三	41
--------------------	------------------------	----

●書評

天木志保美著 『ケアと社交—家族とジェンダーの社会学』 ハーベスト社, 2007年	片岡 佳美	51
---	-------	----

研究室だより	55
2007年度院生業績一覧	56
修士論文題目	58
執筆者紹介	59
「同志社社会学研究」編集規定	
編集後記	

「同志社社会学研究」編集規定

1. 本研究誌は同志社社会学研究学会の機関誌として社会学の研鑽に寄与し、また会員相互の研究交流に資することを目的とする。
 2. 掲載内容は以下のものとする（枚数：400字）
 - 研究論文（40～60枚）
 - 研究ノート（20～30枚）
 - 学会・研究動向（10～20枚）
 - 書評・紹介（10～15枚）
 - 研究室だよりなど
 3. 編集委員は本学社会学専攻教員、同院生及び同卒業生の代表により構成される。
 4. 投稿者は本学社会学専攻教員、同院生、同修了・卒業生とする。
 5. 原稿は未発表のものに限る。掲載の可否は、専門のレフリー（本学教員＋外部の専門家各1名）の審査の結果を受け、最終的に編集委員が行う。
 6. 原稿の締め切りは12月末、発行は翌年3月とする。
 7. 執筆要項
 - 横書き、口語常体、完成原稿で提出。註や参考文献の書式は日本社会学会機関誌「社会学評論」に準じ、論文の最後に別々にまとめる。詳しい執筆要領は別に定める。
 8. 提出原稿の形式
 - 題目は日本語と英文タイトルをつけ、フロッピー1枚とハードコピー（40字×40行）を3部提出。（フロッピーは1.4MBを使用し、MS-DOS及びMACのテキストデータとする。）
- *その他の事項については、社会学の研究誌としての性格に鑑み、編集委員会が対応する。

◆ 編集後記 ◆

『同志社社会学研究』第12号をお届けします。本号は本学の鶴飼孝造先生、吉備国際大学社会福祉学部の黒宮亜希子先生、博士後期課程の多喜弘文氏による3論文、ならびに、小林久高・雨森聡氏・山本圭三による「セミナー」と、片岡佳美先生による「書評」によって構成されています。書評の対象は、以前本学で教鞭をとっておられた天木志保美先生の『ケアと社交——家族とジェンダーの社会学』です。片岡先生は同志社大学文学部生のころ、天木先生のゼミ生であったということです。同志社大学を卒業後、甲南大学大学院の野々山先生の下で勉強され、兵庫県家庭問題研究所への勤務の後、現在、島根大学法文学部に勤務されています。『同志社社会学研究』のさらなる発展のために、関係者の皆様方の力強い応援を、編集委員として今後ともお願いする次第です。

(小林)

◆ 編集委員 ◆

森川眞規雄

小林 久高

片岡 佳美

山本 圭三

多喜 弘文

藤本 穰彦

同志社社会学研究 第12号

2008年3月31日発行

発行人 同志社社会学研究学会

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

TEL. 075-251-3441

FAX. 075-251-3066

印刷 協和印刷株式会社